

## 診療局：内科《総合内科・感染症内科》

### <スタッフ紹介>

役 職	スタッフ名
部長兼臨床研修副センター長 兼感染症センター長 兼院内感染対策室長兼産業医	倭 正也
膠原病内科部長 兼リウマチセンター長	入交 重雄
医長兼院内感染対策副室長	関 雅之
副医長	山本 雄大
非常勤医員	葛城 有希子
非常勤医員	水野 友貴(9月退職)

### 総合内科・感染症内科

### <特色と概要>

現在の医療は高度の専門化が進んでいる一方で、様々な病気を併せ持つ患者に対して「全人的医療」を行うことのできる医師が少なくなっている。そこで当院では2013年4月より総合内科・感染症内科を新たに立ち上げ、診断のついていない症状ではじめて当院を受診され、どの専門科を受診すればよいかわかりにくい患者に対して、専門分野を横断的に診療する幅広い総合診療を行っている。さらにその際に感染症および膠原病の診療を行う機会も多く、これも当科にて診療を行っている。

具体的には、一般内科疾患全般(内科救急疾患を含む)をはじめ原因不明の持続する発熱(不明熱)、関節痛などといった症状を持たれた患者の外来、入院診療を行っている。またその際に、高度な専門医療を要する場合には適切な各専門科に紹介させていただいている。さらに、当科以外の各専門科において入院治療を要する患者に対しても、専門科と良好なコミュニケーションを保ち、多角的に相互補完するバランスのとれたチーム医療を実践し、患者の全身管理のサポートを行っている。

また、輸入感染症の診療も当科の重要な任務の1つである。当院は、厚生労働大臣指定の我が国で4か所の特定感染症指定医療機関の1つであり、西日本では唯一である。当科にて感染症センターに入院された患者の診療を行っている。特に、新型コロナウイルス感染症COVID-19の診断、診療を行っている。

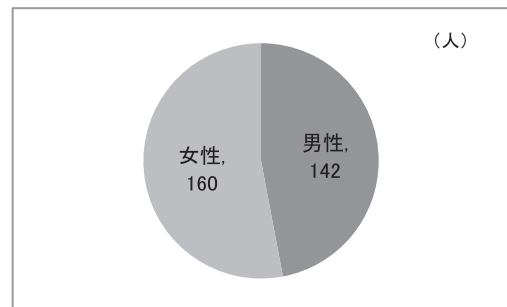
2013年4月、りんくう総合医療センターと泉州救命救急センターがひとつの病院として統合した。救命救急センターとの相互連携を深め、救急医療を含む総合診療と高度な専門医療とが多角的に相互補完する、これからの地域医療を支える新たな診療体系の構築を目標に、総合診療の体制を発展させている。

### <実績>

外来初診患者数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	15	10	16	11	17	11	15	7	10	9	13	8	142
女性	14	18	12	17	16	20	11	14	5	13	12	8	160
合計	29	28	28	28	33	31	26	21	15	22	25	16	302



新入院患者数

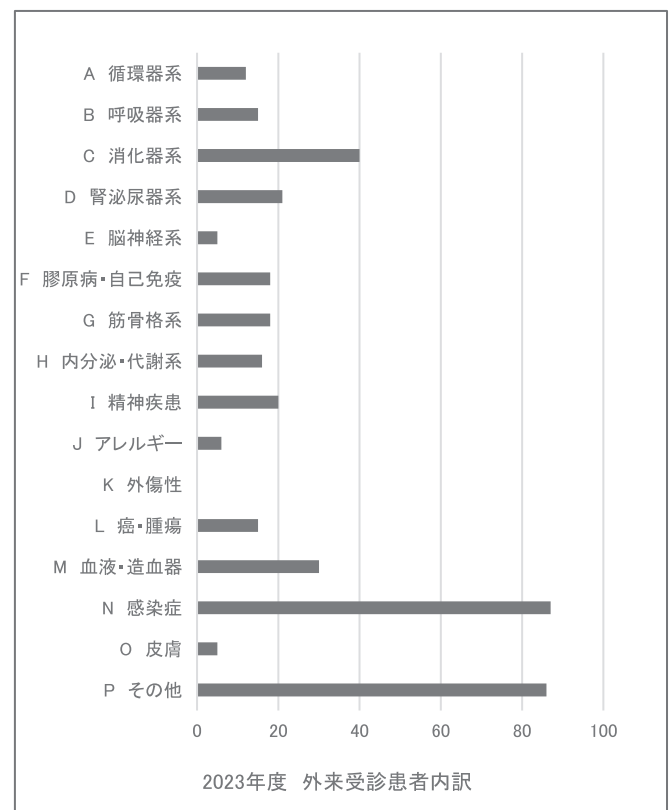
(人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
11	10	22	18	16	16	6	8	9	6	5	4	131

延べ入院患者数

(人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
381	404	473	581	536	418	345	310	305	202	207	232	4,394



A 循環器系	
静脈還流不全	1
下脚浮腫	2
動悸	1
狭心症	1
冠縮性狭心症	1
起立性低血圧	1
心房細動	1
網膜中心動脈閉鎖症	1
完全房室ブロック	1
脂質異常	1
高LDL-C血症	1
B 呼吸器系	
肺炎腫	1
肋軟骨炎	1
肺炎治療後	1
慢性気管支炎	1
肺炎	1
胸水貯留	1
胸膜炎	1
急性気管支炎	1
肺上葉結節	1
気管支喘息	1
異常なし	1
肺結節	1
上葉小結節	1
肺癌	2
C 消化器系	
胸焼け	1
胃潰瘍	1
慢性活動性胃炎	1
胆嚢炎	1
胆嚢腺筋症	2
胆石	1
慢性胃炎	1
γ-GTP高値	1
逆流性食道炎	2
急性胃腸炎	1
食道穿孔ヘルニア	1
急性炎症性疾患	1
鉄欠乏性貧血	2
大腸腺腫	1
FNH(限局性結節性過形成)	1
肝細胞癌	1
原発性胆汁性胆管炎	1
肝硬変	1
胆石	1
Wilson病	1
肝硬変	1
脾腫	1
脂肪肝	4
胃腸炎	1
腸腺癌	2
大腸腺腫	2
萎縮性胃炎	1
アルコール性肝炎	1
異常なし	1
直腸カルチノイド	1
肛門癌	1
横行結腸癌	1
胃粘膜下腫瘍	1
D 腎泌尿器系	
尿路感染症	6
多発性のう胞腎	1
尿潜血陽性	1
急性前立腺炎	1
陰茎癌平上皮癌	1
腎癌	1
慢性腎不全	2
血尿	1
蛋白尿	1
腎盂腎炎	1
骨髄内腫瘍	2
慢性腎臓病	1
腎結石	1
腎不全	1
E 脳神経系	
脳動脈瘤	1
左半身痛	1
迷走神経反射	1
認知症	2
F 膠原病・自己免疫	
リウマチ性多発筋痛症	4
関節リウマチ	1
RS3PE症候群	2
ANCA関連血管炎	2
全身性強皮症	2
異所性甲状腺	1
PR3-ANCA陽性	1
特発性後腹膜線維症	1

鉄欠乏	1
混合性結合組織病	1
壊皮症	1
門脈亢進症	1
G 筋骨格系	
側腹筋痛	1
関節炎	1
肩こり	1
痛性腱鞘炎	2
関節痛	5
腰椎すべり症	1
膝・肘・手指の疼痛	1
こむら返り	1
全身筋痛	1
肋軟骨炎	1
変形性股関節症	2
変形性関節症	1
H 内分泌・代謝系	
糖尿病	3
甲状腺のう胞	1
高度肥満症	1
下垂体機能低下症	1
マクロプロラクチン血症	1
糖尿病性神経障害	1
痛風	2
高尿酸血症	2
高血圧症	2
甲状腺機能低下症	1
低カリウム血症	1
I 精神疾患	
鬱病	4
癡能性高体温症	3
不安症	2
食欲不振	1
低カルウム血症	1
自覚神経失調症	4
ストレス性障害	1
一元的症状説明不可能	1
異常なし	3
J アレルギー	
抗菌薬関連下痢症	1
虫刺さけによる蕁麻疹	1
アレルギー一過性	1
薬剤による上半身感覚異常	1
アレルギー性じんま疹	1
薬剤熱	1
L 癌・腫瘍	
肺癌	2
直腸カルチノイド	1
皮下腫瘍	1
頸部腫瘍	1
紅斑性	1
横行結腸癌	1
胃粘膜下腫瘍	1
膵臓癌	2
陰茎癌平上皮癌	1
腎癌	1
骨髄内腫瘍	1
大腸部癌肉腫	1
卵巣腫瘍	1
M 血液・造血器	
貧血	2
多発性骨髄腫	1
特発性血小板減少性紫斑病	1
好酸球性浮腫	1
好酸球性血管性浮腫	1
好酸球増加症	1
特発性好酸球増多症候群	1
小腸悪性リンパ腫	1
血球貧食症候群	1
正球性貧血	1
鉄欠乏性貧血	1
大球性貧血	1
ビタミンB12欠乏	2
びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	1
異常なし	3
可溶性IL-2レセプター高値	1
N 感染症	
特発性肺炎	7
肺炎球菌性肺炎	1
細菌性肺炎	3
間質性肺炎	3
肺炎	5
薬剤性間質性肺炎	1
誤嚥性肺炎	1
不顕性顕性肺炎	1
蔓延性咳嗽	2
感染後咳嗽	2
2期梅毒	1
潜伏梅毒	1

G群溶連菌血症	1
HIV感染症	2
HIV	1
ウイルス感染症	4
人虫虫症	1
細菌性副鼻腔炎	1
副鼻腔炎	2
潜在性結核感染症	1
結核性リンパ節炎	2
伝染性単核球症	4
COVID-19罹患後肺炎	1
急性扁桃炎	1
急性上気道炎	2
COVID-19	1
COVID-19罹患後不明熱	1
インフルエンザ罹患後不明熱	1
口唇ヘルペス	2
肺炎MAC症	2
肺炎性口内炎	1
慢性炎症性変化	1
帯状疱疹	2
急性肺炎	1
不明熱	4
原因不明の慢性炎症性疾患	1
アデノウイルス咽頭炎	1
頭部リンパ節腫脹	1
肺結核	1
RFP耐性肺結核	1
播種性結核	1
WBC低値	1
無症候性サルモネラ	1
A群溶連菌性扁桃炎	1
インフルエンザ	2
感染性心内膜炎	1
ストリプトコッカス菌血症	1
肺炎結核性肺膿瘍	1
COVID-19罹患後運動欠乏症	1
百日咳	1
下腿浮腫	1
急性細菌性扁桃炎	1
鎌状菌血症混合感染性慢性耳下腺炎	1
レムリエル症候群	1
肺炎部空腔内感染症	1
O 皮膚	
皮膚性紅斑	1
結節性紅斑	1
環状肉芽腫	1
帯状疱疹	1
全身性皮膚	1
P その他	
全身倦怠感	2
発熱に伴う全身関節痛	1
モルペール病	1
不明熱	5
下腿浮腫	7
皮下浮腫	1
右側腹筋痛	1
腰痛症	1
リンパ浮腫	2
腹腔内異物	1
CRP上昇	1
リンパ管腫	1
高CPK血症	1
OPK高値	1
吃逆	1
下腿静脈瘤	1
慢性皮膚膿瘍	1
胸腺肥厚・右胸腔を伴う気腫性変化	1
神経痛	1
浮腫	1
低アルブミン血症	1
電解質異常(低K)	1
脱水	2
季節性	1
季節性	1
慢性咽頭炎	1
体重減少	1
薬剤副作用	4
APT延長	1
不眠	1
高Ca血症	2
鉄欠乏症	2
マクロアミラーゼ血症	1
慢性仙腸関節痛	1
アキレス腱・足趾腱付着部疼痛	1
異常なし	31
大腸癌術後人工肛門	1
薬剤性間質性肺炎	1
左半身びびり	1

## ＜今年度の反省と来年度への抱負＞

地域からご紹介などの診断困難症例、不明熱、重症感染症患者および新型コロナウイルス感染症 COVID-19 の治療にさらに尽力していきたい。また、他診療科とのさらなるコミュニケーションを図り、感染症診療においては今後も引き続き抗菌薬の適正使用に努めたい。

特に、新型コロナウイルス感染症 COVID-19 陰性症例を地域からご紹介いただいた中には、通常の細菌性肺炎のみならず、血液培養陽性の感染性心内膜炎症例、免疫疾患症例、さらには悪性リンパ腫症例などが数多くございました。これらの疾患の迅速な診断、適切な専門科への紹介、治療開始に繋がられるように引き続き努めていきたい。

また、新型コロナウイルス感染症 COVID-19 やその他の新興感染症などの新しい知見、当院での経験などについて、講演、学会発表、学術論文の作成など研究活動に一層力を入れていきたい。

最後に、新型コロナウイルス感染症 COVID-19 については今後も大きな流行の波が起きることが予想されるが、特定感染症指定医療機関として、地域全体の各医療機関、厚生労働省、大阪府、泉佐野保健所をはじめとする府内の保健所、関西空港検疫所、および近隣の府県との連携体制をより強固に構築していき、次なる新興感染症への備えを確実にこなしていきたい。